



かんぽう
ま
No.327
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

子どもに伝えたい
今井昔話が紙芝居になりました

「今井ふるさと歌留多の会」を中心に制作された紙芝居を今回と次回に分けて特集します。今回は会長の原勝美さんに制作の様子や作品を2話紹介してもらいました。

紙芝居の制作について

「今井ふるさと歌留多」の制作が終わったところ、小学校との交流会で、あるお母さんに「今井には昔話ってないんですか。有ったら子供に話して聞かせたい」そんなお話を伺って考えてしまいました。

今井の昔話は、武居兵助さんが「今井の夜話」として冊子にまとめて残されてありました。これを絵本か紙芝居にできないかと思っております。

歌留多の会員の中に紙芝居を小学校などでやっておられる方が居られました。紙芝居の作り方を一から教えて頂き、「今井の夜話」を基に脚本を書いて頂きました。「さて挿絵はどうしよう」これが難題で頭を抱え込んでしま

ました。

そんな時「福祉ひろば」コーディネーターさんが絵を描いているのを思い出しました。「なんとかやってみます」の快諾を頂き、第一作「横出が崎のお夏」が完成しました。その後幸運にもお二人の描き手が発掘でき、現在五作を完成させる事が出来ました。また後二作も脚本が完成し絵を画く作業に入っております。この紙芝居は原画は保存し、パソコンに取り込んで印刷しております。また同じ挿絵、脚本の制作も並行して進めております。



紙芝居の様子

よこて さき
①横出が崎のお夏「きつねの嫁入り」

脚本：篠田 陽 (野口) 絵：福祉ひろばコーディネーター

昔、古池や野口の辺りは「古見大池原」とよばれる草原でした。西の山が鉢盛中学校の辺りで岬のように東に張り出して「横出が崎」と呼ばれていました。ここに「お夏」と呼ばれる女狐が住んでいました。このお夏さんが方々の仲間と協力し、悪い庄屋を懲らしめるといってお話です。日本全国に伝わる狐の嫁入りの民話と、お夏さんの伝説が結びついて一つの話となって伝わったと思われます。お夏さんの仲間に有名な「桔梗ヶ原の玄蕃之丞」がいますが、彼は機関車に化けて衝突して死んだと伝えられていますが、お夏さんには死んだという話は伝わっておりません。今でも「こん原」の辺りを歩いているのかもしれない。お夏さんが化けるのは絶世の美女と伝えられています。



つうそ
②續麻様

脚本：原 勝美 (下新田) 絵：桃井枝里子 (南耕地)

續麻様は、上今井の産土様です。かつては草間、岩垂、神戸、神林、大池の近隣五村の総社であったとい伝えられます。また諏訪大社の祭神の娘とも、妹とも言い伝えられ、今井と諏訪地方との古い結びつきを彷彿とさせます。お名前を天棚機姫の命と申され、機織り、裁縫、安産の神様として深く信仰されておられました。鎖川の上流より流されて来たという洪水伝説、井戸を掘っても水が出ない、續麻様の祟り伝説等、水の問題に非常に苦労した、我が今井の祖先の心情がよく反映された物語だと思います。今は兼平神社を合祀して現在の位置に鎮座されておられますが、かつての御座所のすぐ脇を扇子川がとうとうと流れ、天棚機姫がつかまって這い上がった藤の古木が茂っていたそうです。そして例大祭の提灯が川に映る様は近隣から「今井の灯笼祭り」と称えられたと言われております。





人形劇観賞の様子

後半は、ホイップクリームやスプリングルなどでロールケーキをデコレーションし、マイケーキを作り、おいしくいただきました。

親子で楽しんだクリスマス会



12月11日(日)の午前中30名あまりの親子が参加して、恒例のクリスマス会が開催されました。

前半は人形劇団「やまんば」による「三びきの子ぶた」と「うながのプレッツェル」でした。まず松本山雅の応援拍手子で子ども達の気をひき、信濃の国の曲に合わせ効果音を出す楽器の説明をして人形劇の世界へ引き込んでいきました。

物語の途中では、「危ない行っちゃダメ」と体をのり出したり、ハッピーエンドに安堵したり、話の中に参加して楽しんでいました。

蒸したもち米を臼に入れ、大人がきねでこねた後、子どもたちが順につきました。きねがもちではなく臼のへりに当たったりしながらもおもち

今の子どもの遊びといえば、まずゲームだと思ってしまうのでしょうか。そんな中で、昔ながらの遊びをしている子どもの姿を見るとほっとします。給食で出る牛乳のふたを集め思い思いの絵を描き、二枚三枚とくっつけて強度を増し、試行錯誤して自分のめん



No.264

「子どもの頃のあそび」

1月4日(水)に10名程の子どもたちが、子ども会育成会協力員、福祉協議会高齢者部会の方ともちつきを行いました。



今井地区の人口

(平成29年1月1日現在)
(対比平成28年1月)

世帯数	一、五三〇戸
人口	三、九五五人
男	(前年比三十八人減) 一、九一二人
女	(前年比一八八人減) 二、〇四三人
今年の成人者数	(前年比二〇人減) 二、〇四三人
市外転出者(含む)	四十一名



みんなでもちを丸めます



もちつきの様子

が出来上がり、持ち帰って焼いて食べるように丸もちにしました。

こを作っている姿は、きつと昔の子と変わらないのではありませんかと微笑ましく思います。私の子どもの頃の遊びで覚えているのは、今でもあるルービックキューブです。色を全く揃える事が出来ず、拳句の果てに色のシールを全部剥がして真っ黒にし、「全部揃った」と母に見せたのです。

今井では今でも小学校です

民生・児童委員の紹介

その後、別に用意していただいたゴマ、きな粉をまぶしたおもちやお雑煮をおいしくいただきました。

12月1日付で、今井地区の民生・児童委員5名のみなさまが交替しました。氏名と担当町会は次のとおりです。

- 齊藤 明さん (中村・中沢・下新田)
- 須澤 秀子さん (境新田・東耕地)
- 大槻 義治さん (南耕地・西耕地)
- 三村 和子さん (北耕地・北今井)
- 桃井 多美子さん (主任児童委員)

ケートリンクを作りますが、昔はもつと盛んで、自分のスケート靴を殆どの子が持ち、田んぼのリンクでも滑っていました。今では普通に見かける白いラインの入ったスピード靴は、私の小さい頃まだ持っている子が少なく、自分だけなのが嫌でマジックで黒く塗りつぶし、翌年に流行りだし慌てて消すはめに。まだうっすらとマジックが残る思い出の靴が数年前に出てきたのです。

北風南風

我が故郷の小海線

小海線を知っていますか？ 鉄子さん、鉄男さんなら「ご存じの日本で一番標高の高い」野辺山駅があるJR線

「信濃川上駅」。故郷は遠きにありて、「ご無沙汰娘」で通した私も、縁あつて月一回の利用ではあるが小淵沢駅で乗り換え、小海線まで旅行気分で行っている。今日この頃、車窓に顔をくっつけ見入る春の芽吹き、夏の引き込まれそうな濃い緑の林、秋は唐松の黄葉が、そして凍てつく冬もお勧め。車窓からの風景はそれぞれに個性豊かで楽しませてくれる。それにしても、東京方面からの観光客の多いことには驚くばかり。特に清里、野辺山駅は人々の群れで別世界に來たかの錯覚、都心からだと一泊二日くらいの手頃な避暑地という所か。川上駅で降車する客は奥秩父に登る人達か、松原湖駅も、八ヶ岳に登るのか登山客の人達がそれぞれ数名程降車。そして小海駅の休日には学校も休みなで私の他にやはり数名が降車するだけ。今日も終点『小諸駅』まで走り続ける高原列車

山霧の中 飛び込んでいく小海線(S・H)